

【修了生からひとこと】

石川 千晴さん

ベトナム、ホーチミン市師範大学

研修期間:2012年10月29日～11月12日



私は今年の10月から2週間、国際交流センター主催の国際インターンシップに参加しました。私がこの行事に参加した理由は、海外や日本語教育に関心があり、日本語教育が盛んなアジアで生の日本語教育を見てみたい、発展途上国の学校現場を見てみたいという思いがあったからです。私の派遣先はベトナムのホーチミン市師範大学というところでした。ベトナムは日本よりずっと熱く雨も多く降り、都市に人口が集中しているため、市内ではバイクは日本の何十倍もの数が走っていて、来たばかりの頃は一人で横断歩道を渡ることさえできませんでした。それらを心配してくださった師範大学日本語学科の皆さんはわざわざ電話して私を寮まで送ってくださったり、送れないときはバス停で同じバスを待っている学生に頼んで、降りるバス停に着いたときに知らせてくださったり、休日には旅行会社に頼んで、メコンデルタツアーを予約してくださったり、2週間という短い時間でしたが、沢山の皆さんに支えられて乗り越えることができました。また日本語学科の学生とはまだ日本語を習って数か月、数年だというのに、私に積極的に日本語で話しかけてくれました。「ドラえもん好き？」とか「嵐の中で誰がファン？」などと尋ねられた時は驚きました。私が「なぜ日本語を勉強しているの？」と尋ねると「日本語の漫画が好きだから！」「日本で働きたいから！」と答えます。そのたび日本の文化や日本人はとても愛されているのだなあと感じます。

私は2週間で日本語の会話・文法・発音の授業を計5コマ持ちました。とくに苦労したのは発音と会話でした。例えば授業中、「なつやすみ(夏休み)」「たかかった(高かった)」の発音練習をすると何度練習しても「なちゅやすみ」「たかかつた」となってしまいます。これは日本語にLとRの発音がないから区別しづらいのと同じように、ベトナムにも「つ」「っ」がないので発音が困難なのです。

私は今まで日本語教育のなかでも文法や指導法ばかり研究していたので、発音の指導にはかなり苦労しました。また文法もイ形容詞(国語文法でいう形容詞)とナ形容詞(国語文法でいう形容動詞)の区別や活用、敬語、日本料理の名前など、この2週間で日本語教育のさまざまな問題にぶつかりました。日本語を話せるからと言って日本語を完璧に教えられるわけではないのです。このほかに、現在でも、母語の転移・ら抜き言葉・全然の意味の多様化など、多くの疑問が日本語教育界にあります。このベトナムのインターンをきっかけにより日本語教育の面白さ、難しさを見つけることができました。現在も、日本の小学校に通う外国人児童の学習支援ボランティアと師範大学の留学生のチューターをしています。今でもまだまだ日本語の難しさにぶつかることはありませんが、この2週間の経験を生かして、より学習者に日本語のおもしろさを伝えていけたらと思っています。